

いんぎん新報

刊夕日一十月十
印刷所 小野務平
印刷人 小野務平
代價 一月 金五拾銭
休刊日 日曜 大祭祝日
社信通城警 所行發

いんぎん新報 是正しく羊 頭狗肉の策

這般行はれた縣會議員選舉に關して各選舉民が政治的自覺の缺乏より甚だしき矛盾の行爲を敢てなし悟として愧ぢざるものあるを發見した例せば何派の運動員なりと標榜し其實際は敵派に二十日より十五日間毎日午

脱落を加へた 本郡選舉人名簿

來る二十日より十五日間
關係者の閱覽に資す

大正十二年九月十五日現在	豊間 三四一 三三八	江名 四一八 四一〇	鹿島 二〇〇 一九九	小名 五六七 五六五	玉川 二四二 二三七	磐崎 四五九 三九四 六五	湯本 三二六 三二〇	内郷 四二九 四三二	好間 四二五 三三二 九三	赤井 三八六 三七〇 一六	永戸 一 三七二	三阪 三四〇 三四五 四五	神谷 三六四 三七八 四五	草野 四三四 四二二 一一	大浦 三五七 三五四 三	四倉 四〇三 三八一 二二	大野 三六二 三五七 五	平窪 三一四 三二二 二	下小 三五六 三三九 一三	川前 二六六 二六〇 六	右の如くであつて既に判明	十四名の増加であつて好間	村の激増は前年度七十餘名	の脱落者加入せしめた結	果であるが尙未着の平、飯	野雨町村に於ても著しく増	加して居る模様である
--------------	------------	------------	------------	------------	------------	---------------	------------	------------	---------------	---------------	----------	---------------	---------------	---------------	--------------	---------------	--------------	--------------	---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	--------------	--------------	------------

政戦の跡を眺めて (八)

在小名濱 小野生

豊間村北部純 潔者の無節操

斯くて豊間村の得票は豫定
の半数にも充たすして敵派
の勝利を見るに至つたので
あるが従來の分野は塵什で
あつたか此亦参考となるも
のが多々ある。豊間村の政
憲兩派の勢力は政友七分意
三政三分の岐點で常に豊間
の大なるものであつた然る
に此度は正反對に政友四分
政六分の數字を示すに至つ
た事は何れに依つて然る
か吾輩の奇怪とする處であ
る彼志賀、鈴木兩氏が開
ねたる志賀兼吉氏は留守役
て居る鈴木文十郎氏亦本部
山田氏を尋ねて運動費を要
せせりと聞いたが、此亦志
賀氏の筆法に出でたるもの
で實に其行動獅子身中の蟲
たるに愧ぢぬものであると
斷言して憚らぬ由來豊間村
の不誠意に依つて二千票を
獲得すべき得票は半遺憾其
目的點數に達せなかつたも
ので此れ全く羊頭狗肉の陋
策に出でた結果で將來尤も
此種の運動員に注意を促す
一言を豊間北部統領志賀、
鈴木兩氏に捧るものである

平、泉の兩製水が 全く合併成立す

兩社の代表者今日會見し
事務一切の引繼をす

平製水會社と泉製水會社とが一切の
引繼を了したれば
は殆むと同一系統の株主に
よつて組織されあり乍ら兩
社の合併は茲に全く成立
した譯である而して未だ具
體的には進むでぬないが江
二さのあり爲めに之れを合
名製水會社と同様の目的か
併して利益の増大を劃ら
ら合併機運着々進捗しつ
つある模様であるから之れ
も近くは合併實現の運び
に至るであらうと

上遠野義金

郡内左記小學校長は教育視
察の爲め十日間の豫定を以
て中通り會津方面へ出張す
る由
(小名濱) 福尾伊太郎、(渡
邊) 柴田正則(湯本尋高校
高槻忠政

家畜共進會

十一月八日より
郡山第三校
安積、安達、田村三郡農會聯
合主催第一回福島縣家畜共
進會は來る十一月八日より
郡山第三小學校内に於て開
催の由なるが出品者多數あ
る由にて希望者は本郡農會
宛問合せらるべしと

郡外視察員

三校長の
郡内左記小學校長は教育視
察の爲め十日間の豫定を以
て中通り會津方面へ出張す
る由
(小名濱) 福尾伊太郎、(渡
邊) 柴田正則(湯本尋高校
高槻忠政

受付を開始

狩獵免許の
願者便宜の爲
平警察署にては毎年十月十
五日より狩獵免許の下附受
付事務を開始したのである
が本年は東京震災に關する
事務其他の關係から事務幅
狭し且つは免許願者の便宜
を計る爲め今日より受付を
開始したから希望者は申し
出すべし

天
氣
晴
れ
日二十月十

讀むむ
何事でも痛快に素被披
いたものです讀者から
も投稿を歓迎す
文責編輯局
か
貞女
貞女とは亭主の死んだ當座
再縁するに差支ひの生じな
い程度に於て即ち丸鬘を結
び、底髪に結び、銀杏返しに
結び、珠數爪繰つて入前だ
け殊勝顔をせしめる女の
也……男の下駄が、チヨイ
と臺所に脱がれ翌朝にな
つて無くならうと二度目結
婚をせず後家の看板をさい
掛けておれば所謂立派な貞
女である假令陰では役者買
ひを爲さうと男妾を有たう
と情夫に入れ上げようとな
れが世間に洩れさい仕なけ
れば即ち金看板の貞女であ
る、其の目的は何うでも外
出の行き先は何處であらう
と兎に角亭主の死後寺詣り
佛壇いざりた餘念ない風を
装つてさい居れば押しも押
されぬない貞女として通
用し婦人の龜鑑として讚辭
を呈せらるものと知るべし

ローマ字
女學生等が無學な親の前で
ラップのレターを書くに用ゆ
る字である書く者にばかり
解つて讀まされるものには
頓珍漢な事多い即ち讀む
者困らせの字にして外國語
のやうに見えて馬鹿に學者
らしく思はせるに重寶な買
被らせの字と心得べし

疑はれた役者の妻 平署で首を吊る

観音劇場の俳優夫婦が 今日平署で眞實の涙

小川村開場生れ吉田みさを(二四)は數年前より上京してゐるうち淺草觀音劇場附近俳優角彌(二八)と内縁を結び同居してゐた偶々去る九月一日の大震災に當り角彌とみさをは

同僚の 役者である左門幸木村豊春方に馳せ付け避難準備の手傳ひに努めた上今は住む所も無き爲め二人手を取つてみさをの實家である小川村に歸りゐるうち前記俳優の木村は角彌夫婦の爲めに家具衣類等を窃取されたと云ふので

平署に 取押へ方を訴へ出てたので平署は去る八日夜兩人を引致し粧品と思しき信を袋大風呂敷包等を押収して之れを突きつけ乍ら取調べたるに角彌夫婦は決して盗むたものでは無い避難の途中木村方の者と分別れ別れになつた爲め紋張其他數點を自分か

保管し て置いただけの事であると頑張り今日に至るも尙ほ取調べ中の處みさをは身の潔白であるのに假令嫌疑でも掛かるとは神も佛もないと終日泣き暮してゐたが今十一日午前十一時半突然署員の隙を窺つて便所に入り窓格子に

風呂敷 を掛けて盗死せんとしたるを發見大騒ぎとなり醫師を招へて手當を加へたが逆上しきつたみさをはヒステリー症が、ますます祟し其の後も舌を噛み切つて自殺する模様あり嚴重なる監視をしてゐるが角彌も芝居氣を離れ

私は身 の一日も早く明るくなる様こうして祈りを懸けて居りますと「馬頭観音大菩薩」と書いた紙端を懐ろから出して「警察は罪人を捕へる所だか罪人を作る所だか私は判りませんと大きな涙を流し乍らみさをの頭に氷嚢を當ててゐた

アビル哲人
一週間日延
地方人の喜び

昨日午後七時頃より降り出した豪雨は夜半に至つて益々激しく風さい交いて物凄く許り平署には萬一を慮つて警戒を怠らなかつたが午前一時頃平町高月臺に目下下町紺屋町炭屋旅館内にて一般の豫言をなして殆んど百發百中の成績を収めたに於てアビル氏は下工事中の警城中學校の九

昨十日午後七時頃より降り出した豪雨は夜半に至つて益々激しく風さい交いて物凄く許り平署には萬一を慮つて警戒を怠らなかつたが午前一時頃平町高月臺に目下下町紺屋町炭屋旅館内にて一般の豫言をなして殆んど百發百中の成績を収めたに於てアビル氏は下工事中の警城中學校の九

す由なるが十七日經過以後は絶対に滞在せしむべき交渉の餘地なかるべしとの事なれば此際一刻も還延する處なく行つて其の不可思議なる運命の鑑定を依頼するべしと因に鑑定料は普通金一圓である

坑夫の妻 情夫と駈落

夫の金品を 窃取して

内郷村大字宮字町田磐城炭礦居住坑夫高橋末松の妻ハナミは去年十二月より同家に同居してゐた前田萬吉(二五)と姦通し本年六月廿一日夜末松所有の現金四十圓と羽織一枚袴一着を共謀の上窃取し手を取つて逃走したる爲め姦通並に盜罪として平署に告訴された

飯野尋常高等小學校本月十二日午前八時より同校の庭に於て秋季陸上運動競技會開催の筈

昨夜の暴風雨で
警中校講堂倒潰す
損害は五六千圓位か

昨夜の暴風雨で警中校講堂倒潰す損害は五六千圓位か

昨夜の暴風雨で警中校講堂倒潰す損害は五六千圓位か

義捐金調べ

千九百八拾圓

本郡教員部會に於て過般來東京地方震災救済義捐金募集中の處今十一日迄泉錦兩小學校を除く郡内各小學校に於て寄附申込み總額は合計金千九百七十七圓八十五圓五厘に達せるが其の内譯は左の如し

山田(二十圓)窪田(五十圓)窪田第二(十三圓十錢)川部(四十圓)上遠野(四十五圓)八遠野(二十八圓七十四錢)平第一(七十八圓二十七錢)平第二(二百三十圓四十四錢)小名濱(百四十七圓七十九錢)内郷第一(二十三圓六十二錢)内郷第二(六十八圓一錢)内郷(五十六圓九十六錢)飯野(三十七圓六十四錢)夏井(四十四圓七十錢)高久(四十五圓七十錢)豊間(四十一圓六十五錢)江名(五十五圓)矢田(八圓十三錢)藏持(十五圓十八錢)玉川(三十圓)警崎(四十圓九十四錢)警崎第一(四十八圓七十錢)警崎第二(二十四圓七十三錢)湯本(六十三圓)好間第一(七十三圓)好間第二(十五圓)赤井第一(二十五圓)赤井第二(二十五圓)上三(八錢)澤渡(二十圓)上三(八圓九十三錢)中三(八圓四十三錢)差塩(十九圓四十三錢)永井(十圓九十二錢)合戶(六圓五十錢)渡戸(十圓八十二錢)箕輪第一(十圓十九錢)箕輪第二(八圓)四倉(五十圓七十二錢)五厘(平窪(三十六圓七十五錢)神谷(四十三圓八十三錢)草野(三十四圓十錢)大浦(四十四圓七十錢)大野(三十五圓)大野第二(二十四圓)小川(二十五圓九十五錢)川前(十三圓二錢)桶賣(十五圓八十

窪田第二(十三圓十錢)川部(四十圓)上遠野(四十五圓)八遠野(二十八圓七十四錢)平第一(七十八圓二十七錢)平第二(二百三十圓四十四錢)小名濱(百四十七圓七十九錢)内郷第一(二十三圓六十二錢)内郷第二(六十八圓一錢)内郷(五十六圓九十六錢)飯野(三十七圓六十四錢)夏井(四十四圓七十錢)高久(四十五圓七十錢)豊間(四十一圓六十五錢)江名(五十五圓)矢田(八圓十三錢)藏持(十五圓十八錢)玉川(三十圓)警崎(四十圓九十四錢)警崎第一(四十八圓七十錢)警崎第二(二十四圓七十三錢)湯本(六十三圓)好間第一(七十三圓)好間第二(十五圓)赤井第一(二十五圓)赤井第二(二十五圓)上三(八錢)澤渡(二十圓)上三(八圓九十三錢)中三(八圓四十三錢)差塩(十九圓四十三錢)永井(十圓九十二錢)合戶(六圓五十錢)渡戸(十圓八十二錢)箕輪第一(十圓十九錢)箕輪第二(八圓)四倉(五十圓七十二錢)五厘(平窪(三十六圓七十五錢)神谷(四十三圓八十三錢)草野(三十四圓十錢)大浦(四十四圓七十錢)大野(三十五圓)大野第二(二十四圓)小川(二十五圓九十五錢)川前(十三圓二錢)桶賣(十五圓八十

窪田第二(十三圓十錢)川部(四十圓)上遠野(四十五圓)八遠野(二十八圓七十四錢)平第一(七十八圓二十七錢)平第二(二百三十圓四十四錢)小名濱(百四十七圓七十九錢)内郷第一(二十三圓六十二錢)内郷第二(六十八圓一錢)内郷(五十六圓九十六錢)飯野(三十七圓六十四錢)夏井(四十四圓七十錢)高久(四十五圓七十錢)豊間(四十一圓六十五錢)江名(五十五圓)矢田(八圓十三錢)藏持(十五圓十八錢)玉川(三十圓)警崎(四十圓九十四錢)警崎第一(四十八圓七十錢)警崎第二(二十四圓七十三錢)湯本(六十三圓)好間第一(七十三圓)好間第二(十五圓)赤井第一(二十五圓)赤井第二(二十五圓)上三(八錢)澤渡(二十圓)上三(八圓九十三錢)中三(八圓四十三錢)差塩(十九圓四十三錢)永井(十圓九十二錢)合戶(六圓五十錢)渡戸(十圓八十二錢)箕輪第一(十圓十九錢)箕輪第二(八圓)四倉(五十圓七十二錢)五厘(平窪(三十六圓七十五錢)神谷(四十三圓八十三錢)草野(三十四圓十錢)大浦(四十四圓七十錢)大野(三十五圓)大野第二(二十四圓)小川(二十五圓九十五錢)川前(十三圓二錢)桶賣(十五圓八十

植田支局から

時こそ来よ。山に遊ばん

裏山の百舌鳥は頻りと啼き立て天空限りなく晴れた昨今の秋冷に葉質は黄金が染めて来た小草を分けて洩れ出した綱草と初草とは今やその盛りで杖を山に曳かんとする人の群や秋は既に熟し切つたのである佛具山の麓に或は上遠野入遠野の山奥に親族故舊の宿を訪ねて旅枕の一宵を見越して遊ぶことも秋冷に相應しい趣向がある近くは植田町を去る東約一里の大松林縣議當時八騒がせをした鷺清吉氏の持主から俗稱之れを清吉分とは言ふのであるが此の清吉分に數ならぬ栗と茸の珍品を獲て山番の熊公八公を相手に自然の偉大な靈氣に浸つて見るのも秋ならでは得られない絶好の山遊びであらうがまづ此處二三日と言ふ處だ。

窪田支局から時こそ来よ。山に遊ばん裏山の百舌鳥は頻りと啼き立て天空限りなく晴れた昨今の秋冷に葉質は黄金が染めて来た小草を分けて洩れ出した綱草と初草とは今やその盛りで杖を山に曳かんとする人の群や秋は既に熟し切つたのである佛具山の麓に或は上遠野入遠野の山奥に親族故舊の宿を訪ねて旅枕の一宵を見越して遊ぶことも秋冷に相應しい趣向がある近くは植田町を去る東約一里の大松林縣議當時八騒がせをした鷺清吉氏の持主から俗稱之れを清吉分とは言ふのであるが此の清吉分に數ならぬ栗と茸の珍品を獲て山番の熊公八公を相手に自然の偉大な靈氣に浸つて見るのも秋ならでは得られない絶好の山遊びであらうがまづ此處二三日と言ふ處だ。

窪田支局から時こそ来よ。山に遊ばん裏山の百舌鳥は頻りと啼き立て天空限りなく晴れた昨今の秋冷に葉質は黄金が染めて来た小草を分けて洩れ出した綱草と初草とは今やその盛りで杖を山に曳かんとする人の群や秋は既に熟し切つたのである佛具山の麓に或は上遠野入遠野の山奥に親族故舊の宿を訪ねて旅枕の一宵を見越して遊ぶことも秋冷に相應しい趣向がある近くは植田町を去る東約一里の大松林縣議當時八騒がせをした鷺清吉氏の持主から俗稱之れを清吉分とは言ふのであるが此の清吉分に數ならぬ栗と茸の珍品を獲て山番の熊公八公を相手に自然の偉大な靈氣に浸つて見るのも秋ならでは得られない絶好の山遊びであらうがまづ此處二三日と言ふ處だ。

酒は!

鶴仙

酒は! 鶴仙 醸造元松吉屋本店 石城郡平窪村 電話二四一

酒は! 鶴仙 醸造元松吉屋本店 石城郡平窪村 電話二四一

酒は! 鶴仙 醸造元松吉屋本店 石城郡平窪村 電話二四一

三井呉服店の

多物大廉賣急告

奉仕 三井呉服店 御祝儀式用 三井呉服店へ 御引物用反物種々取揃へ申候

三井呉服店の 多物大廉賣急告 奉仕 三井呉服店 御祝儀式用 三井呉服店へ 御引物用反物種々取揃へ申候

三井呉服店の 多物大廉賣急告 奉仕 三井呉服店 御祝儀式用 三井呉服店へ 御引物用反物種々取揃へ申候

大哲人! 豫言者

アビル 來る

迷へる人よ來つて此の神 哲的な天來の聲に聞け!!!

迷へる人よ來つて此の神 哲的な天來の聲に聞け!!!

迷へる人よ來つて此の神 哲的な天來の聲に聞け!!!

アビル後援會

金 壹 圓

期日 十月十七日マデ日のべ 鑑定料 金 壹 圓

期日 十月十七日マデ日のべ 鑑定料 金 壹 圓

期日 十月十七日マデ日のべ 鑑定料 金 壹 圓